

株主メモ

- 事業年度
3月1日～翌年2月末日
- 期末配当金受領株主確定日
2月末日
- 中間配当金受領株主確定日(中間配当を行う場合)
8月31日
- 定時株主総会
毎年5月
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL／0120-094-777(通話料無料)
- 上場証券取引所
東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行なう
公告記載URL <http://www.moresco.co.jp/>
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

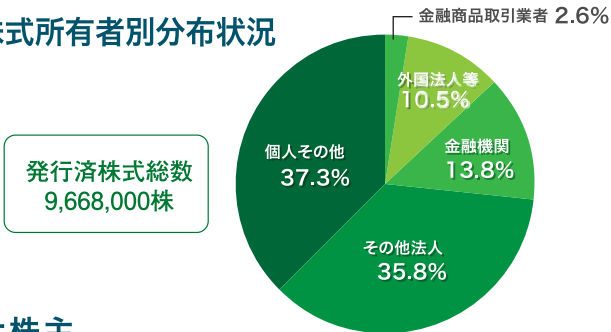
【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

株式の状況

発行可能株式総数…………… 20,000,000株
発行済株式総数…………… 9,668,000株
株主数…………… 3,336名

株式所有者別分布状況



大株主

株主名	持株数	株主比率(%)
松村石油株式会社	1,067,000	11.0
コスモ石油ブリカンツ株式会社	503,000	5.2
日本曹達株式会社	365,000	3.8
MORESCO従業員持株会	357,120	3.7
双日株式会社	327,000	3.4
三菱商事株式会社	327,000	3.4
ノムラビービーノミニーズ ティーケーワンリミテッド	299,900	3.1
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	279,500	2.9
株式会社みずほ銀行	250,000	2.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	250,000	2.6

持株比率は自己株式数(502株)を控除して計算しております。

(平成25年8月31日現在)

MORESCO

第56期

中間報告書

平成25年3月1日～平成25年8月31日

株式会社 MORESCO

MORESCO、インドネシア戦略が本格始動



PT.MORESCO INDONESIA本社・工場



両社がオフィスを構える首都ジャカルタ市



PT.MORESCO INDONESIA工場内

ASEAN最大の成長マーケットに製造拠点を確立

世界第4位の人口を有し、消費性向の高いアッパーミドル層が急増しているインドネシア。ASEAN最大の成長マーケットと目され、近年は先進各国の製造業が

参入しています。20年近く前からこの国の成長力に注目してきたMORESCOは、日本やタイの生産工場を通じ、特殊潤滑油を中心とした製品供給を行ってきました。現在は現地生産体制を確立、製造・販売の両面体制によるマーケット開拓に情熱を傾けています。

モータリゼーションとPT.MORESCO INDONESIA

インドネシア戦略の拠点となっている現地法人は2社。そのうち2011年に設立、2012年4月より生産を開始しているのがPT.MORESCO INDONESIA。MORESCOと現地代理店2社が共同出資で立ち上げた自動車部品用のダイカスト用油剤を中心に扱う会社です。西ジャワ州カラワンの工業団地内に構えた敷地面積11,000㎡の工場は、ダイカスト用油剤の他、切削油剤や難燃性作動液などを製造し、生産能力は年間4,000トン。タイ、日本からの輸入を現地生産に切り替えることで、より市場に即した製品を

供給することが可能となりました。

インドネシアでは、モータリゼーションによる二輪・四輪市場の成長と家電メーカーによる増産が続いており、工業用特殊潤滑油の需要は今後一層伸びる見込みです。PT.MORESCO INDONESIAはダイカスト用油剤ですでに国内シェア70%以上を獲得していますが、今後は他製品の展開や価格戦略も含めて、競合他社との差を広げていく構えです。

成長市場に特化したPT.MORESCO MACRO ADHESIVE

もう一社の現地法人PT.MORESCO MACRO ADHESIVEは、昨年1月に設立したMORESCOと現地接着剤メーカーとの合併会社です。西ジャワ州チカンデ工業団地内に生産拠点を構え、主に子供用紙おむつ向けのホットメルト接着剤を取り扱っています。

少子化国では需要が伸び悩む子供用紙おむつも、出生率が高いインドネシアでは成長商品。国内外のメーカーがしのぎを削る激戦区ともいえる市場です。そんな中、PT.MORESCO MACRO ADHESIVEは日系メーカーを中心に、受注量を急速に伸ばしています。これは「世界で戦える」



PT.MORESCO MACRO ADHESIVE工場

技術力の賜物。ホットメルト接着剤は、環境や人の健康に影響を及ぼすVOC(揮発性有機化合物)を含まず、「人の肌に触れる」衛生用品の接着剤として安全性など理想的な機能を持っており、紙おむつの安全・安心品質に大きく寄与します。

現在、工場の生産能力は年間4,000トンですが、需要増を受けて来年には2ラインに増設、生産能力は年間8,000トンとなる見込みです。

成長著しいASEAN諸国の中でも「ものづくり企業」としての夢と可能性が最も豊かに息づくインドネシア。MORESCOは今後もインドネシアをはじめタイ、ベトナムなど近隣国も含めた地域に生産・販売網を広げ、「世界にきらりと光を放つ」製品を提供していきます。

ものづくり最前線

ハードディスク表面潤滑剤

【唯一無二のテクノロジー、
“ナノの被膜”が情報を守る】

2010年以降、各メーカーで本格的に採用が始まったMORESCOのハードディスク表面潤滑剤「モレスコホスファロール D-40H」。記録された情報をナノメートル(100万分の1ミリメートル)単位の薄膜形成で保護する高度な技術とともに、ディスクの高速回転時も飛散しにくい優れた吸着性、耐熱性が業界から高く評価されています。原料精製の段階から極めて複雑なプロセスを必要としており、まさに他社がマネることのできない“オンリーワン”製品。クラウドコンピューティングのサーバー需要にも対応する高い信頼性を有し、現在、次世代潤滑剤の研究開発が進行中です。



モレスコホスファロール D-40H

アジア市場を中心に、MORESCOの技術力を成長分野へ投下していきます。



代表取締役社長
赤田 民生

投資家向けデータ

第2四半期連結
累計売上高 **11,046**百万円

海外売上高
(第2四半期累計) **3,200**百万円

海外展開を主に 計画通りの業績を達成

第56期中間報告にあたって、現在の経営環境をご説明いたします。昨年度は日中問題の影響やインドネシアでの新たな生産体制に遅れが出たことも重なり、当社の海外展開はやや足踏み状態でした。

またオンリーワンの高付加価値製品であるハードディスク表面潤滑剤も、売上が順調ではあったものの原価高というマイナス要因に見舞われました。こういった状況を改善すべく、2013年度は高い目標値を定めてスタートし、おかげさまで上半期においては計画通りの業績を残すことができました。

製品でいえば、まず当社が海外で注力展開している子供用紙おむつ向けのホットメルト接着剤がインドネシアで好調に推移

しています。現地法人PT.MORESCO MACRO ADHESIVEでは、昨年10月の本格的な生産開始以来、受注量が急速に増えています。インドネシアは、人口世界第4位、一人当たりのGDP3,000ドル超という魅力的な市場です。取引先の紙おむつメーカーの国内シェアが高いという好条件下の展開であり、需要も急増していることから、来年には生産ラインの増設に着手することになるでしょう。

また、東南アジア市場の基幹製品であるダイカスト用油剤についても、インドネシア、中国、また北米を含めて順調に伸びており、後に述べます日華化学株式会社との業務提携によって国内外ともに生産・販売体制の強化が可能となりました。

ハードディスク表面潤滑剤については、世界の大手ユーザー3社で新製品など

当社製品が採用されており、世界市場でのシェアを上げています。パソコン需要は停滞気味ですが、当社が得意とする企業向けサーバーやモバイルのバックアップ用のハードディスクドライブは伸びており、当期はさらなる収益増が期待できます。

天津市新工場への取り組みと ホットメルト戦略

現在、全力をもって取り組んでいるのが、

中国の天津市の新工場設立計画です。紙おむつ向けホットメルトの生産・販売拠点として2014年の完成、2015年の生産開始を目標とし、準備が佳境に入っ

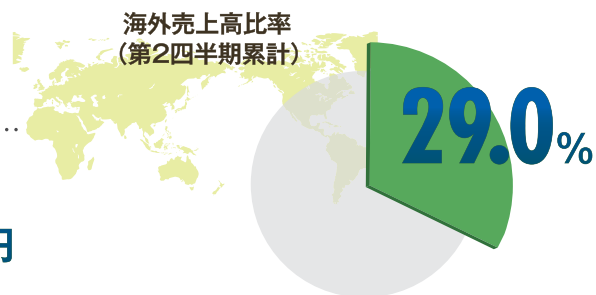
ています。中国は人口の多さや消費水準の上昇など乳幼児用衛生用品の潜在需要が高く、日系紙おむつメーカーと足並みを揃える形でこの優良市場に拠点を構えます。工場の敷地面積も25,000㎡と当社最大規模であり、将来的には敷地内に特殊潤滑油の工場や研究開発施設の建設も可能です。ゆくゆくは当社のグローバル戦略の中核的存在にしていきたいと思います。



特殊潤滑油部門売上高
(第2四半期累計) **4,865**百万円 前年同期比 **9.1%増**

ホットメルト接着剤部門売上高
(第2四半期累計) **2,620**百万円 前年同期比 **15.6%増**

合成潤滑油部門売上高
(第2四半期累計) **1,163**百万円 前年同期比 **30.8%増**



日華化学との提携による 今後の新展開

今年5月に、界面活性剤の製造販売を主力とする日華化学株式会社と業務提携し、ダイカスト用油剤と熱間鍛造潤滑剤事業を譲り受けました。これによってダイカスト用油剤の国内シェアが約55%となり、海外への製品供給網も強化されます。中でも期待しているのはタイの市場です。タイは当社が最初に海外拠点を構えた国ですが、近年は成長がやや鈍化していました。今回、タイのマーケットに強い日華化学株式会社と提携することにより、再びタイを東南アジアのビジネスの中核として活性化できるものと思います。

なお、今年はインドネシアルピアの下落による通貨危機の懸念もありますが、世界

経済の動向把握に注力し、リスクの軽減に努めていきます。また災害やサプライチェーンの問題などを想定したBCP(事業継続計画)構築のため、アジア近隣諸国間の原料・製品供給ネットワークを強化していきます。

ものづくり企業としての 原点にこだわる

創立55周年を迎えた今年度は、海外展開を中心に様々な動きが集中する節目の年となります。そういった中でも、「ものづくり企業」としての原点を忘れず、成長市場へ向けて新製品開発に注力します。

溶剤フリーの環境対応型「自動車内装用反応型ホットメルト」は現在パイロット生産ですが、国内の高級車需要の流れに乗って順調に採用実績をあげています。

また、今期待されている有機EL(エレクトロ・ルミネッセンス)デバイスの分野に貢献する高性能の封止材料も、国内外の企業から引き合いをいただいています。いずれも国内の実績を積んだのちに世界各国へ展開していく目論見です。

今後も、「小さくとも世界にきらりと光を放つ」企業として邁進いたしますので、株主の皆様には引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



投資家向けデータ



素材部門売上高
(第2四半期累計)

1,786百万円

前年同期比

2.2%増



資本金

2,090,578,200円

TOPICS

1 日華化学株式会社と 業務提携し、競争力強化

5月1日、日華化学株式会社(以下「日華化学」)との業務提携契約を締結しました。当社は日華化学のダイカスト用油剤、熱間鍛造潤滑剤の国内外における製造・販売に関する事業を譲り受け、より効率的な材料調達、製品販売のグローバル展開が可能となりました。一方で、日華化学は主要原料のグローバルな生産体制の拡充が可能となり、当社にとっては継続的な材料購入が可能となり、調達コストを削減し国際競争力の強化につながる生産体制を確立できます。



日華化学(株)との調印式

2 確実な需要増をにらみ、 生産拠点を拡大



中国・天津市との調印式

今後も需要増が見込める中国で、紙おむつ向けホットメルト接着剤の生産・販売を強化します。中国・無錫市、インドネシア・ジャカルタ市に続く3番目の海外拠点として、新たに中国・天津市に子会社を設立する予定です。

評価の高い日系「紙おむつ」メーカーの現地生産に対応すべく、2015年をめぐに敷地面積25,000m²の工場を稼働させる計画です。

3 高収益が期待できる 成長分野に、積極的投資

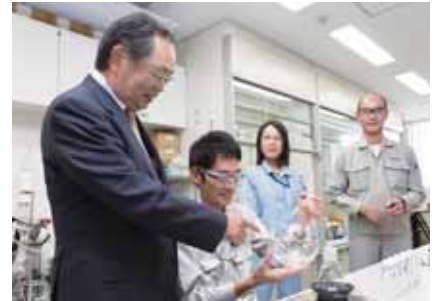
7月26日、国内公募増資について発表を行いました。国内公募増資は115万株、資金調達金額は約11億円となりました。調達資金の用途は、赤穂工場のダイカスト用油剤の製造設備増強およびインドネシアのホットメルト接着剤製造設備、さらに企業向けサーバーの大容量化に伴い需要増となるハードディスク表面潤滑剤の製造設備の増強等、長期的観点に立ち、新たな高収益事業の育成を図っていきます。



前年同期比、売上高**10.5%増**、経常利益は**62.8%増**

当社グループにおきましては、中国、東南アジアを中心にダイカスト用油剤や難燃性作動液等の特殊潤滑油製品の売上高が増加し、インドネシアでは昨年生産を開始した紙おむつ用ホットメルト接着剤が売上高増に貢献しました。また利益面では、利益率の高いハードディスク表面潤滑剤の新製品が好調であったことや、為替の影響等により、前年同期を大きく上回る利益を確保することができました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は11,046百万円（前年同期比10.5%増）となり、経常利益は897百万円（前年同期比62.8%増）、四半期純利益は536百万円（前年同期比69.7%増）となりました。



セグメント業績概要

日本

前年同期比、売上高**1.7%増**、セグメント利益**28.9%増**

■ 特殊潤滑油

ダイカスト用油剤、切削油剤の売上高は、国内自動車生産台数の減少に伴い伸び悩みましたが、日華化学㈱から譲り受けた熱間鍛造潤滑剤が当第2四半期より寄与しております。

■ 合成潤滑油

高温用合成潤滑油は、中国を中心とする自動車生産の伸びに支えられ、また、ハードディスク表面潤滑剤は、高性能新製品の採用が進み、どちらも過去最高の売上高を達成しました。

■ 素 材

流動パラフィンはポリスチレン向けが需要の復調と新規ユーザー獲得により増加、リチウムイオン電池のセパレータ生産向けも中国への輸出増により堅調に推移しました。

■ ホットメルト接着剤

主力である大人用紙おむつなどの衛生材向けや粘着剤、その他用途は前年同期並みの売上高で推移しました。

海外の概況

中国

前年同期比、売上高**40.9%増**、セグメント利益**65.1%増**

中国では、国内の自動車生産台数が前年同期を上回り、ダイカスト用油剤、難燃性作動液、ホットメルト接着剤等が前年同期の売上高を大きく上回りました。

東南アジア

前年同期比、売上高**94.6%増**

タイ国内での切削油剤の売上が好調であったことに加え、日華化学㈱から譲り受けたダイカスト用油剤、熱間鍛造潤滑剤が寄与しました。
インドネシアでは、昨年10月から生産を開始した子供用紙おむつ向けホットメルト接着剤が順調に立ちあがると共に、ダイカスト用油剤や難燃性作動液等、特殊潤滑油の生産が拡大いたしました。

北 米

前年同期比、売上高**92.6%増**

北米では、好調な自動車生産を背景に、自動車関連顧客の需要が順調に推移するとともに、ダイカスト用油剤等の新規ユーザーの獲得等により売上高が増加しました。また、高温環境下で使用する合成潤滑油の需要も着実に拡大しました。

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 平成25年8月31日現在	前第2四半期 平成24年8月31日現在
資産の部		
流動資産	11,898	9,188
現金及び預金	2,748	1,235
受取手形及び売掛金	5,610	4,799
たな卸資産	3,155	2,834
その他	384	320
固定資産	8,020	6,432
有形固定資産	4,933	4,897
無形固定資産	1,490	564
投資その他の資産	1,597	971
資産合計	19,917	15,620
負債の部		
流動負債	7,562	6,470
支払手形及び買掛金	4,194	3,872
短期借入金	2,087	1,420
その他	1,280	1,178
固定負債	1,891	1,192
長期借入金	1,354	493
その他	537	698
負債合計	9,453	7,662
純資産の部		
株主資本	9,177	7,379
資本金	2,091	1,526
資本剰余金	1,951	1,386
利益剰余金	5,136	4,467
自己株式	△0	△0
その他の包括利益累計額	309	△145
少数株主持分	979	725
純資産合計	10,465	7,958
負債・純資産合計	19,917	15,620

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 自平成25年3月1日 至平成25年8月31日	前第2四半期 自平成24年3月1日 至平成24年8月31日
売上高	11,046	9,994
売上原価	7,727	7,177
売上総利益	3,320	2,818
販売費及び一般管理費	2,557	2,338
営業利益又は営業損失(△)	763	480
営業外収益	166	101
営業外費用	32	29
経常利益	897	551
特別利益	—	8
特別損失	—	4
税金等調整前四半期純利益	897	555
法人税、住民税及び事業税	181	112
法人税等調整額	88	106
少数株主損益調整前四半期純利益	628	337
少数株主利益	92	21
四半期純利益	536	316

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 自平成25年3月1日 至平成25年8月31日	前第2四半期 自平成24年3月1日 至平成24年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	502	△124
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,652	△499
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,597	342
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	8
現金及び現金同等物の増減額	1,465	△273
現金及び現金同等物の期首残高	1,015	1,295
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,480	1,023

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

経営理念

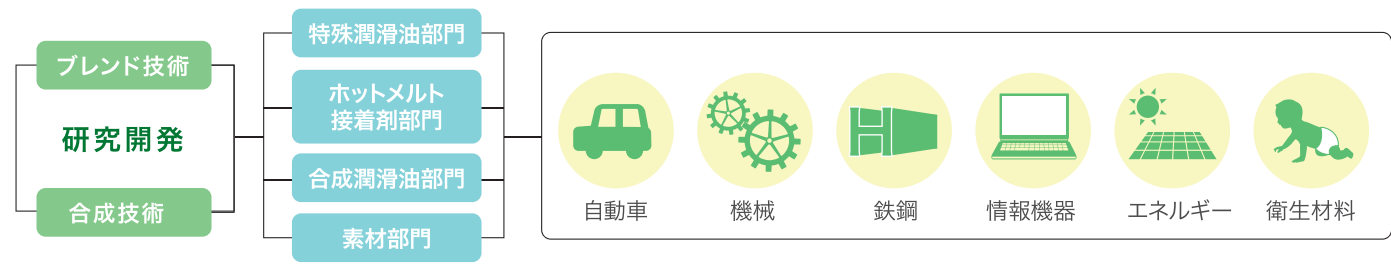
水と油と高分子のスペシャリストとして社会の発展に貢献する

小さくとも 世界にきらりと光を放つ企業を目指して

1 私たちは、「ユーザーのための研究開発」をモットーに、境界領域におけるニーズに応えることによって、いつの時代にも社会に貢献できる企業を目指しています。

2 私たちは境界領域のスペシャリストとして、新しい分野へも展開をはかり、新たな機能とサービスを提供していきます。

3 私たちは、人間性を尊重する環境づくりと、自由な発想によって、新しい価値を創造することに喜びをわかち合える企業を目指しています。



会社概要

商 号 株式会社MORESCO
設 立 1958年10月27日
資 本 金 2,090,578,200円
従 業 員 数 282名

本社および事業所

本 社 ・ 研 究 セ ン タ ー 神戸市中央区港島南町5丁目5-3
TEL / 078-303-9010 (代表)

支 店 東京支店 / 大阪支店
営 業 所 名古屋営業所 / 九州営業所
工 場 千葉工場 / 赤穂工場

役員構成

代表取締役会長 中野 正徳 取締役 両角 元寿
代表取締役社長 赤田 民生 取締役 米田 徳夫
常務取締役 竹内 隆 常勤監査役 本田 優
常務取締役 作田 真一 監査役 富野 武
常務取締役 山地 一 監査役 小沢 史比古
取締役 菊池 習作 監査役 長谷川 克博
取締役 高梨 雅廣

(平成25年8月31日現在)